

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年7月1日※1
(前回公表年月日:令和3年7月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
日本ガーデンデザイン専門学校	平成12年8月7日	山田 幸子	〒251-0002 神奈川県藤沢市大銀1218-1 (電話) 0466-28-0411																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人湘南みどり学園	平成12年8月7日	高倉 織江	〒251-0002 神奈川県藤沢市大銀1218-1 (電話) 0466-28-0411																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
農業	農業専門課程	ガーデンデザイン科 フラワーコース	平成15年文部科学省告示 第14号	—																		
学科の目的	造園 や園芸に関する専門的、実務的な技術や知識を効果的に指導するため、企業・団体との緊密な連携をはかり、実務的かつ高い技術や知識を有する人材を育成する																					
認定年月日	平成28年2月19日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
2年	昼間	2240	640	0	1504	0	96															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
160人	54人(14人)	0人	3人	11人	14人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各学期に行う試験、実習成果、課題提出、出席状況等を総合的に勘案して行う 各学期末に行う試験、実習成果、課題提出状況、出席率を勘案し行う																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏季:7月14日～9月6日 ■冬季:12月22日～1月9日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級条件																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には本人と保護者へしている		課外活動	■課外活動の種類 ・横浜イングリッシュガーデン ハンギングバスケット部門 出展 ・日比谷ガーデニングショー 出展 他 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 造園・花卉・ブライダル業界に就職している ■就職指導内容 クラス担任が個別面談や指導、就職先斡旋等を行う ■卒業生数: 18人 ■就職希望者数: 16人 ■就職者数: 14人 ■就職率: 87.5% ■卒業者に占める就職者の割合: 77.8% ■その他 ・就職活動中: 2人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年7月1日※1時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>造園技能士</td><td>①</td><td>21人</td><td>20人</td></tr><tr><td>園芸装飾技能士</td><td>①</td><td>20人</td><td>16人</td></tr><tr><td>フラワー装飾技能士</td><td>①</td><td>14人</td><td>12人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	造園技能士	①	21人	20人	園芸装飾技能士	①	20人	16人	フラワー装飾技能士	①	14人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
造園技能士	①	21人	20人																			
園芸装飾技能士	①	20人	16人																			
フラワー装飾技能士	①	14人	12人																			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 4.4% 令和3年3月31日時点において、在学者54名(令和3年3月31日卒業者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者45名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病気療養のため ■中退防止・中退者支援のための取組 入学前は、オープンキャンパスへの参加を推奨し、参加者に対して本校の特色、学習内容を周知することでミスマッチを防ぐ努力をしている。入学後においては、出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には本人と保護者への連絡、個人面談を行っている																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 AO入試・推薦入試で入学の場合、入学金10万円減免 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

造園業界、フラワー業界、両業界の取引先であり、かつ主として公園や庭園等の公共施設等を管理・運営する行政および関連団体と連携して、職業現場で実践されている伝統技術と知識、あわせて最新の技術と知識を習得し、即戦力となる職業人の養成をめざし教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会規程を制定し、組織の中に位置づける(別添資料参照)。次年度の教育課程の編成に際し、教育課程編成委員会での議論を提言としてまとめ、職員会議に報告する。職員会議で集約され編成された教育課程を基に、専任教員と兼任教員を含めた全体会議(講師会)において承認を受け決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
横井 昭一	公益財団法人神奈川県公園協会	令和3年9月1日から 令和7年3月31日	③
富田 改	一般社団法人神奈川県造園業協会	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	①
鈴木 正	公益財団法人三溪園保勝会	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	③
緒賀 道夫	横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	①
鈴木 織江	日本ガーデンデザイン専門学校	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	
山田 幸子	日本ガーデンデザイン専門学校	令和4年4月1日から 令和7年3月31日	
佐々木 秀典	日本ガーデンデザイン専門学校	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	
中村 文	日本ガーデンデザイン専門学校	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	
熊坂 朋子	日本ガーデンデザイン専門学校	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(4月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年4月6日 14:00～16:00

第2回 平成29年9月1日 14:00～16:00

第1回 平成30年4月5日 14:00～16:00

第2回 平成30年9月5日 14:00～16:00

第1回 平成31年4月4日 14:00～16:00

第2回 令和元年9月4日 14:00～16:00

第1回 令和2年4月3日 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止

第2回 令和2年9月4日 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、書面開催

第1回 令和3年4月6日 14:00～16:00

第2回 令和3年9月3日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

各施設の植栽等の管理計画に対応したカリキュラムを編成してほしいという意向を受けて、各施設から年間計画を提出して頂き、必要に応じて実習実施時期の変更や実習回数を調整して実施した。
また機械を使用した植栽管理作業も重要との意見が挙がり、「ガーデン実習Ⅰ」「ガーデン実習Ⅱ」の授業において耕運機や刈払機などを使用する実習を追加した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

造園業界、フラワー業界、両業界の取引先である公園や庭園等の公共施設等の、庭師・管理運営者として求められる、剪定技術、植栽技術、管理技術、知識等を全般的に向上させ、立地や気候、施設の規模や特色等に合わせ臨機応変に対応できる技術者を育成することを目指す。
幅広い伝統技術および最新の技術、業界動向や知識の習得のために、特色の異なる庭園および公園等の施設を有する複数の企業・団体を確保し、実習指導を行えるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習前に校内の担当教員と企業・団体の実習講師が事前協議を行い、各施設の実践的かつ専門的な実習の場で、生徒が剪定技術、植栽技術や管理技術、施設の趣旨等について学ぶことで、施設全体の発展に寄与する発想力を培い、行動できるような学習内容を定める。実習中は、学生の実習の実施状況や能力、習得状況について、定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習終了時における、学生の学習成果の評価については、実習施設の現場担当者の5段階評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ガーデン実習Ⅰ	植栽管理では剪定・刈込の基礎技術を習得し、季節ごとに経験を積み、時期と種類に合った手入れの習得を目的として、複数の連携施設において様々な植栽管理を行う。 造園施工では道具の取り扱いや伝統的・日本庭園の施行技術を学ぶとともに、各種造園材料にあった施工技術を習得することを目的として、造園圃場で施工実習を行いその仕上げとして連携施設において施工する。	公益財団法人三溪園保勝会(場所:三溪園) 公益財団法人神奈川県公園協会(場所:神奈川県立辻堂海浜公園) 横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所(場所:俣野別邸庭園)
フラワー装飾実習Ⅰ	花材の下準備・保管・作品制作・作品の維持管理などの基本知識・技術を学び、フラワー装飾の多様な表現方法を身に付けることを目的として、作品制作を行うとともに作品を連携施設などに飾り維持管理まで行う。	横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所(場所:俣野別邸庭園)
フラワー装飾実習Ⅱ	目的に合わせてフラワーアレンジがデザインできる力を養い、その花材調達から制作に至るまでの実務作業をこなせるだけの知識と技術を身に付けることを目的として、作品制作を行うとともに作品を連携施設などに飾り維持管理まで行う。	横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所(場所:俣野別邸庭園)

<p>公園植栽管理実習</p>	<p>これからの公園の在り方を公園スタッフの立場と公園利用者の立場の両面から考えることのできる意識の形成と、公園の業務・運営の実際を知ること、日々の植栽管理の知識と技術の定着を目的として、毎週のように継続的に実習の行える連携施設において実習を行う。</p>	<p>横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所(場所:俣野別邸庭園)</p>
<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>		
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 「学校法人湘南みどり学園日本ガーデンデザイン専門学校日本ガーデンデザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、造園業界、フラワー業界、商業界の取引先である公園や庭園等の公共施設等の、庭師・管理運営者として求められる、実務に関する幅広い伝統技術および最新の技術および業界動向や知識を習得し、学生を指導する。教員を庭園や公園等の施設に派遣し研修を行うことで、実践的かつ専門的な技術・技能の向上に努める。 また授業の進め方やシラバスの作成方法などに関する研修も実施し、授業方法の改善を工夫する姿勢を教員に徹底させる。 これらの研修は、校長が研修規程に基づき、必要な研修を判別して受講させることとして決定している。</p>		
<p>(2) 研修等の実績</p>		
<p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名:「松の管理」(連携企業等:公益財団法人三溪園保勝会(場所:三溪園)) 期間:令和3年11月22日(月) 対象:教員 1名 内容:春季における植栽管理技術を修得するための実技研修</p>		
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名:「大学の教職員等向け 労働法の教え方セミナー アルバイトや就職後のトラブルから、学生を守るために 第4回 大学生の就職活動の際の注意点」 (連携企業等:)厚生労働省(委託事業:LEC東京リーガルマインド) 期間:令和3年11月30日(火) 対象:教員 1名 内容:就職活動・就職後のトラブルから学生を守るために、具体的な事例などを交えながら、キャリア支援の指導方法について学ぶ。</p>		
<p>(3) 研修等の計画</p>		
<p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名:「松の管理(連携企業等:公益財団法人三溪園保勝会(場所:三溪園))」 期間:令和4年7月8日(金) 対象:教員 1名 内容:夏季における植栽管理技術を修得するための実技研修</p>		
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>未定(新型コロナウイルス感染症の影響により、外部研修が開催未定のため)</p>		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること

(1)学校関係者評価の基本方針

本校が行う教育活動、その他の学校運営について、自らが評価する「自己評価」の結果を評価することを基本として、企業・団体等の委員や、その他の委員によって「学校関係者評価」を実施する。
その結果を踏まえ、教育活動やその他の学校運営の改善に資する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育の理念
(2)学校運営	学校の運営
(3)教育活動	教育の活動
(4)学修成果	学習の支援と成果
(5)学生支援	学校生活と行事
(6)教育環境	教育の環境
(7)学生の受入れ募集	生徒の募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会還元
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会の評価を教職員全体に報告し、業務計画に反映するために必要に応じ、短期・中期・長期の対策を練り、順次実施している。

また、みどりの業会では離職率の高さが問題となっているが、就職活動の一環として、業界の状況等を伝えてほしいとの意見を受けて、企業から講師を招いている「フラワー装飾実習Ⅰ」等において、業界の動向や状況等の講義内容の充実を依頼して授業を実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
横井 昭一	公益財団法人神奈川県公園協会	令和3年9月1日から 令和7年3月31日	③
富田 改	一般社団法人神奈川県造園業協会	令和3年9月1日から 令和7年3月31日	①
鈴木 正	公益財団法人三溪園保勝会	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	③
富田 改	横浜市環境創造局公園緑地部 南部公園緑地事務所	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	①
小島 正伸	株式会社コジマホールディングス	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	①
勝又 市郎	株式会社湘南みどり園 グループホーム 花樹	令和2年4月1日から 令和7年3月31日	①
山口 摩理香	グリーン ケア サプリ	平成31年4月1日から 平成36年3月31日	③

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価委員会において、広報誌等の刊行物を配布し、概況説明を行うとともに、ウェブページやSNSなどでも情報を公開・発信することで本校教育活動を周知する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	アクセス、学校案内 - 当校の特徴・施設紹介
(2) 各学科等の教育	コース・資格 - コース紹介・カリキュラム
(3) 教職員	学校案内 - 先生紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職 - 就職
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校生活 - カレンダー、FaceBook
(6) 学生の生活支援	学費 - 奨学金・ローン
(7) 学生納付金・修学支援	学費 - 学費
(8) 学校の財務	情報公開 - 情報公開について
(9) 学校評価	情報公開 - 情報公開について
(10) 国際連携の状況	0
(11) その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.jp-garden-design.com>

刊行物: 学校案内パンフレット、「学生募集要項」

(1) <https://www.jp-garden-design.com/access/index.html>

<https://www.jp-garden-design.com/about/index.html>

<https://www.jp-garden-design.com/about/institution.html>

(2) <https://www.jp-garden-design.com/course/index.html>

<https://www.jp-garden-design.com/course/curriculum.html>

(3) <https://www.jp-garden-design.com/about/teachers.html>

(4) <https://www.jp-garden-design.com/employment/intro.html>

(5) <https://www.jp-garden-design.com/schoolLife/index.html>

<https://www.facebook.com/Japan.garden.design>

(6) <https://www.jp-garden-design.com/tuition/scholarshipLoan.html>

(7) <https://www.jp-garden-design.com/course/qualification.html>

(8)(9) <https://www.jp-garden-design.com/schoolinfomation/index.html>

公表日: 2021年9月2日 「学校評価報告書」

<https://www.jp-garden-design.com/schoolEvaluation/img/2021jikohyouka%20.pdf>

公表日: 2021年9月2日 「財務情報」

https://www.jp-garden-design.com/schoolEvaluation/img/2021_2020_zaimu.pdf

授業科目等の概要

(農業専門課程ガーデンデザイン科フラワーコース)令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			花壇園芸	花壇用草花の名前や開花期、特性を学ぶ。	1 通	64		○			○			○	
○			花卉園芸Ⅰ	花に関する生理生態面や、栽培といった生産面を学ぶ。	1 通	64		○		△	○	△	○		
○			樹木学Ⅰ	樹木を徹底的に覚え、人間との関係を理解する。	1 通	64		○		△	○	△		○	
○			花・緑総論Ⅰ	造園の歴史や役割、可能性を正しく理解する。	1 前	32		○			○	△	○	△	
○			植物病虫害	植物の病気と害虫について判断と防除法、処置の大切さを学ぶ。	1 前	32		○			○			○	
○			ガーデン施工Ⅰ	造園工事の基本的な施工法を学ぶ。	1 後	64				○	△	○	○		
○			花卉園芸実習Ⅰ	草花の栽培技術を幅広く習得する。	1 通	128		△		○	△	○	○		
○			フラワー装飾実習Ⅰ	フラワーアレンジメント・寄せ植え等を制作する。	1 通	96		△		○	○	○	○	○	○
○			美術	造形的な知識やバランス感覚を養う。	1 通	96				○	○	△		○	
○			ガーデン設計Ⅰ	平面図・立面図・断面図・詳細図・立体的な表現のパース等を学ぶ。	1 前	64				○	○		○		

授業科目等の概要

(農業専門課程ガーデンデザイン科フラワーコース)令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ガーデンデザ インⅠ	快適なみどりの住環境の設計・デザインを学 ぶ。	1 通	96		△		○	○	△		○	
○			ガーデン実習 Ⅰ	作庭や樹木等の植栽管理の実践的な技術者を 養成する。	1 通	224		△		○	△	○	○		○
○			資格取得講座	厚生労働省技能検定(国家検定)の合格が目 標。	1 前	48		△	△	○	○	○	○	○	
○			測量	測量技術を様々な機械と手法を用いて実習す る。	1 後	48		△		○	△	○	○		
○			樹木学Ⅱ	樹木を徹底的に覚え、人間との関係を理解す る。	2 通	64		○		△	○	△		○	
○			植物病虫害Ⅱ	植物の病気と害虫について判断と防除法、処 置の大切さを学ぶ。	2 前	32		○		△	○	△		○	
○			公園植栽管理 実習	公園利用者の視点に立って公園の植栽を維持 ・管理して行く。	2 通	96		△		○	△	○		○	○
○			ガーデンデザ インⅡ	快適なみどりの住環境の設計・デザインを学 ぶ。	2 通	96		△		○	○	△	○	○	
○			ガーデン設計 Ⅱ	エクステリアデザインの基礎知識を学ぶ。	2 後	64		△		○	○	△	○		
○			実施設計	施工に関する基礎を学ぶ。	2 前	64		△		○	○	△	○		
○			資格取得講座	厚生労働省技能検定(国家資格)の合格が目 標。	2 前	48		△	△	○	○	○	○	○	
○			花・緑総論Ⅱ	造園の歴史や役割、可能性を正しく理解する。	2 後	48		○			○	△	○	△	

授業科目等の概要

(農業専門課程ガーデンデザイン科フラワーコース)令和2年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			花卉園芸応用	園芸作業の一連の流れを学ぶ。	2通	64		○			○				○	
	○		花卉園芸Ⅱ	花に関する生理生態面や、栽培といった生産面を学ぶ。	2通	64		○		△	○	△	○			
	○		花卉園芸実習Ⅱ	草花の栽培技術を幅広く習得する。	2通	96		△		○	△	○	○			
	○		花壇園芸実習	様々なタイプの花壇の計画と管理技術を幅広く習得する。	2通	160		△		○	△	○	○	○		
	○		フラワー装飾実習Ⅱ	フラワーアレンジメント・寄せ植え等を制作する。	2通	128		△		○	○	○	○	○	○	
	○		フラワービジネス	フラワービジネスの実態を学び、今後のニーズに対応する力を養成する。	2通	96		△		○	○	△	○	○		
合計			28 科目		2240単位時間(単位)											
2240時間			○共通科目 23科目			1696時間										
			○選択科目 フラワーコース 5科目			544時間										
卒業要件及び履修方法															授業期間等	
○1年次はすべて共通科目、14教科(1120時間)を習得すること								1学年の学期区分				2期				
○2年次では、フラワーコースを選択している生徒は、共通科目の9科目(576時間)と、選択必修科目の5教科(544時間)を習得すること								1学期の授業期間				16週				
○卒業要件は、上記28教科(2240時間)を全て習得すること																

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。